

日本医学会分科会活動報告

公益社団法人日本小児科学会
会長 岡 明

[分科会としての活動]日本医学会分科会としての過去5年間の活動

I. 医学および医療の水準の向上への貢献が日本医学会分科会にふさわしいと考えられる貴学会の独自の活動

a. 特に学術的に重要と考えられるもの

以下の事業を定期的に実施し、小児領域の学術的発展に寄与している。

- i) 日本小児科学会学術集会（毎年1回）の開催
- ii) 学会雑誌（日本小児科学会雑誌、*Pediatrics International* 誌）の発行（毎年各12回）
- iii) 小児科専門医に関する事業（専門医試験の運営（毎年1回実施）、専門医更新審査（毎年2回実施）、小児科専門医が目指す到達目標等指針の改訂等）
- iv) 小児科医を対象とする研修会/講習会の開催（インテンシブコース、思春期医学臨床講習会、小児科医のための臨床研修指導医講習会、小児在宅医療実技講習会、小児死亡時対応講習会、小児診療初期対応〔JPLS〕コース/講師養成コース、生物統計ハンズオンセミナーアドバンスコース、網羅的遺伝子解析ハンズオンセミナー、臨床統計学ハンズオンセミナー）
- v) 厚生労働省またはAMED研究事業への参画（厚生労働省「臨床効果データベース整備事業」、日本医療研究開発機構（AMED）臨床研究・治験推進研究事業「小児領域における新薬開発促進のための医薬品選定等に関する研究」）

b. 当該領域における国際的な役割

国際学会への参画および共同事業などを実施している（国際小児科学会（IPA）Standing Committee の輩出、米国小児科学会（AAP）との共同事業、海外からの留学生受け入れ事業、海外への留学支援事業等の実施）

c. 活動からもたらされる社会的な意義

i) 小児医療従事者や小児保健関係者、一般の方を対象とする研修会/講習会/市民公開フォーラム等を開催し、小児を取り巻く社会的環境整備に貢献している（園医・看護職・保育士のための研修会、公開シンポジウム子どもの権利条約批准25周年記念療養と子どもの権利を考える、子どもの食育を考えるフォーラム、小児救急市民公開フォーラム、小児・周産期医療従事者向け災害医療研修会、倫理委員会公開フォーラム等）

ii) 学会ホームページを通じ情報提供・提言等を公開している。（代表的なものを記載）

○提言・指針等（カルニチン欠乏症の診断・治療指針2016・2018、「子どもの死亡の原因に関する情報の収集、管理、活用等に関する体制、データベースの整備等に関する提言」、将来の小児科医への提言2016・2018、早産・極低出生体重児の経腸栄養に関する提言、入院から在宅療養への移行に係る中間施設の在り方に関する提言、乳幼児の虐待による頭部外傷(AHT: Abusive Head Trauma)に関する共同合意声明、母体血を用いた出生前遺伝

学的検査 (NIPT) の現状と日本小児科学会の基本姿勢、幼児肥満ガイド、ロタウイルスワクチンの ED チューブや胃瘻管を介した接種に関する提言

- 予防接種・感染症対策関連では、インフルエンザ等の診療に関する情報提供や学校、幼稚園、保育所において予防すべき感染症の解説などを掲載し、啓発に努めている
 - 新型コロナウイルス感染症関連では、子どもおよび子どもにかかわる業務従事者のマスク着用の考え方や小児の外来診療における新型コロナウイルス感染症 2019 (COVID-19) 診療指針、新型コロナウイルス感染症に関する Q&Aなどを掲載し、啓発に努めるとともに、関係機関への要望書を提出している。
 - 子どもの事故防止の観点から、Injury Alert (傷害速報) を掲載し、啓発に努めている。 ※平成 30 年度消費者支援功労者表彰団体部門内閣総理大臣賞受賞
 - 関係機関への要望書等の提出を通じて、子どもを取り巻く環境の改善に寄与している (医療施設における気管カニューレの事故抜去等の緊急時の対応に関する要望、熊本地方で発生した地震後の新生児医療体制支援に関する要望書、小児がん医療の革新のための要望書：“全ゲノム解析体制の構築によるアンメットメディカルニーズ”の克服、小児慢性特定疾病対策および指定難病対策における平成 31 年度追加疾病の要望、大規模災害時の乳児栄養の確保を目的とした液状ミルクの国家備蓄についての要望、電話相談事業(#8000 事業)への更なる支援に関する要望、日本専門医機構と基本領域学会との連携の在り方に関する要望書、母子保健事業である乳幼児健康診査の緊急事態宣言下での継続的实施についての要望書、令和 3 年度分小児慢性特定疾病ならびに指定難病に対する追加疾病の要望、2020 年度社会保険診療における小児医療に関する要望書)
- d. 学会運営上留意している点
- 男女共同参画を推進する委員会を作り、学会として取り組んでいる。

II. 日本医学会分科会にふさわしいと考えられる他の分科会との連携活動

日本産科婦人科学会と周産期医療に関係する課題について定期的に協議・検討している。

本学会の分科会である日本小児神経学会、日本小児血液・がん学会、日本小児循環器学会や、周産期・新生児学会とは、専門医制度などで常に連携を行っている。

日本腎臓学会、日本動脈硬化学会、日本集中治療医学会とは疾患のガイドライン等での連携を行っている。

[期待・要望]日本医学会に期待すること、日本医学会への要望

優生保護法に関する意見のとりまとめや、COI 管理など、医学界に共通する重要な倫理的な事項などについては、引き続き医学会が意見の集約や標準化などをお願いしていきたい。

その中で、NIPT についても医学会が国との調整をはかり、制度をサポートしていくなど役割を果たすことが重要と思われる。